

週刊新潮の『'16医療ルネサンス—注目の名医スペシャルインタビュー』シリーズ第23回で、
当院の樋上哲哉院長が紹介されました。

2月4日号(2016.1.28.発売)



●PROFILE 樋上哲哉(ヒガミ・テツヤ)神戸大学医学部卒。複数の国公立大学医学部で教授を歴任。2015年葉山ハートセンター院長に就任。冠動脈バイパス手術を飛躍的に進化させたといわれる超音波メスによる内胸動脈採取法の開発者で、これまでに数多くの心臓血管外科手術をおこなっている。■日本心臓血管外科学会心臓血管外科専門医・日本循環器学会循環器専門医・日本外科学会外科専門医。



注目の名医 23
●スペシャルインタビュー
Special Interview

'16医療ルネサンス

葉山ハートセンター 院長

術後10年20年先のQOLを考えた心臓手術

神奈川・葉山●冠動脈バイパス手術のスペシャリストが院長に就任

手術の成功は命が助かることではなく、その人の生活レベルを元に戻すこと。心臓外科医・樋上哲哉医師はそう考える。そのため、手術方法や使う素材を開発するなど、心臓手術の新たな可能性を拓いてきた樋上医師は、葉山ハートセンターでさらなる挑戦を続けている。

発病前の快適な暮らしに戻る手術を

成人心臓手術において、プロフィールに記した通り冠動脈バイパス術における超音波メスによる左右の内胸動脈採取法を開発した樋上医師の功績は大きい。一般的には足の静脈を採取して冠動脈につなぐが、足の静脈は動脈硬化を起こしやすい。手術後10年ほど経つと再手術が必要になる可能性が高い。内胸動脈は体内で最も動脈硬化を起こしにくいのが採取が非常にむずかしいという難点があった。樋上医師は超音波メスを使うことで繊細な内胸動脈を採取し、バイパス手術に用いることに成功した。

左右2本の内胸動脈を用いることは非常に高度な技術であり、誰でも行えるものではないため、まだまだ一般的にはなっていないが、冠動脈バイパス手術に新たな可能性を拓き、10年後20年後の患者の生活の質(クオリティ・オブ・ライフ)QOLを飛躍的に高めるものとして、世界から注目を浴びている。しかも、患者の心臓を止めることなく心拍動下にて手術を行うので患者の体への負担

CLINIC data

葉山ハートセンター

外来受診受付時間▼
月～金 午前8:30～11:30
午後1:30～4:30
午後4:45～6:45
土 午前8:30～11:30
外來休診日▶日曜日、祭日、お盆、年末年始 所在地▶神奈川県三浦郡葉山町下山口1898-1 アクセス▶JR横須賀線「蓮子」駅前ロータリーから無料送迎シャトルバス運行(日・祝運休)
電話▶046-875-1717(代表) http://www.hayamaheart.gr.jp

心臓疾患の早期発見・予防に全力

こうした考えのもと、葉山ハートセンターでは2016年に心臓疾患の有無や将来の発病の可能性を診断するスクリーニングセンター1や、発病前や後のケアを行う未病センター1を開設する。心臓疾患に関するあらゆる治療が行えるようになるそうだ。

週刊新潮

2月4日号
400円



5